



令和元年12月19日	
所 属	学校教育課
所属長	平岩 健太郎
電 話	06-4950-5685

尼崎市立下坂部小学校 博報賞及び文部科学大臣賞受賞の報告に市長表敬します

尼崎市立下坂部小学校が第50回「博報賞」日本文化・ふるさと共創教育部門文部科学大臣賞受賞の報告を行うため、市長を表敬訪問します。

1 日時

12月20日(金)午前11時30分～12時00分

2 場所

尼崎市役所南館2階市長室

3 活動内容及び受賞決定理由

別紙参照

4 出席者(11人)

- ・尼崎市立下坂部小学校長
- ・尼崎市立下坂部小学校教諭
- ・児童4人
- ・教育長
- ・教育次長(2人)
- ・学校教育部長
- ・学校教育課 係長

以 上

〈推薦理由〉

尼崎市久々知にある広済寺には、江戸時代に人形浄瑠璃や歌舞伎の世界で活躍した劇作家、近松門左衛門の墓所がある。近松は広済寺を再興した日昌上人と親交があり、しばしば広済寺を訪れただけでなく、本堂裏にある仕事部屋で数々の作品を執筆していたと伝えられている。

こうしたことから尼崎市では、市制70周年を迎えた1986年から「近松のまち・あまがさき」をめざして様々な取組を進めている。広済寺に隣接した近松公園には地域の人々により設立された近松記念館があり、過去帳、愛用の文机、手紙など、近松ゆかりの資料が展示されている。毎年10月の近松の命日に合わせて、大近松祭として法要と墓前祭が執り行われ、近松記念館では文楽協会による文楽上演のほか、近松音頭保存会による踊りなどと合わせて、尼崎市立下坂部小学校浄瑠璃クラブ・和文化クラブが「寿式三番叟（ことぶきしきさんばそう）」を上演するなどして、近松の業績をたたえ伝える催しを行っている。また、尼崎市では広済寺、近松公園一帯を「近松の里」と名付け、市民が歴史や文化とふれあえるよう整備している。地域においても前述の近松音頭保存会のほか、「近松の里」におけるボランティアガイドなどを行う近松かたりべ会が立ち上げられ、市民の手による活動が進められている。

広済寺や近松記念館などの「近松の里」を校区にもつ尼崎市立下坂部小学校は、明治10年創立の今年で創立142年を迎える伝統ある小学校である。校歌にも「大近松の名のもとに芸術の華永久に咲く・・・」とうたわれ、校区には多くの卒業生が幾世代にもわたって住んでおり、地域が学校に高い関心を寄せる地域でもある。

下坂部小学校では、地域の人々が誇りとし、校歌にも歌われている近松門左衛門に親しむ学習を「近松郷土学習」と位置づけ、生活科や総合的な学習の中で取り組みオープンスクールで発表するなど、工夫を凝らした実践を行ってきた。また、浄瑠璃クラブや和文化クラブを立ち上げ、地域の方々の協力と指導を得ながら、三味線、太鼓、踊り、語りなど近松ゆかりの芸能に親しんでいる。そしてその成果を大近松祭、オープンスクールなど地域や保護者に向けて発表している。また、平成24年度から3年間、尼崎市教育委員会から指定を受け「特色ある教育活動推進事業」に取り組み伝統と文化について理解を深め発展させる実践に取り組んだ。またその後も「近松郷土学習」を教育課程の一つの柱として位置づけ、各教科、特別活動において系統的にかつ教科横断的な取組を進めている。

〈候補者の博報賞応募履歴〉 有 ・ 無

Blank box for reporting award application history.

〈「博報賞」応募のきっかけ〉 該当する項目に○をつけて下さい。

<input checked="" type="checkbox"/> 当財団から郵送された案内	(お届け先：尼崎市教育委員会))
<input type="checkbox"/> 新聞	(新聞))
<input type="checkbox"/> 雑誌	(雑誌名))
<input type="checkbox"/> ご紹介	(ご紹介者様名：))
<input type="checkbox"/> インターネット検索	(検索ワード：))
<input type="checkbox"/> 情報・ポータルサイト	(閲覧場所：))
<input type="checkbox"/> 博報財団HP・フェイスブック・SNS)
<input type="checkbox"/> 博報財団メールマガジン)
<input type="checkbox"/> その他	()

〈活動の概要〉

【タイトル】（

「近松」とともに～教育活動の柱として「近松郷土学習」を位置づけた取組～

【活動のきっかけと目的】本校の校区にある広済寺には江戸時代に活躍した近松門左衛門の墓所がある。広済寺に隣接した近松公園には近松記念館があり、地域でも近松音頭保存会や近松かたりべ会などが立ち上げられ、近松ゆかりの文化が市民の手で大切に受け継がれている。その中に建つ本校は、校歌にも「大近松の名とともに」とうたわれ、近松は地域や学校の誇りとされてきた。地域で大切に受け継がれてきた近松門左衛門の芸術や功績に触れ、親しみを持つことを通して、郷土を愛し、自校と郷土に誇りと自信を持って表現できる児童の育成をめざして「近松郷土学習」に取り組んでいる。

【具体的な実践内容】

1 具体的な活動内容

(1) 横断的・縦断的名カリキュラムの編成

地域との連携を深め郷土愛を育むことを目的として、地域に開かれたオープンスクール「近松デー」を中心として近松郷土学習に取り組み、工夫した実践を行ってきた。平成 24 年度からは、「わたしたちのふるさと発見」～伝統を楽しもう・引き継ごう・伝えよう～のテーマで各教科・特別活動において「近松」に親しむ教材に取り組んでいる。また、年間計画をたて計画的に学習を進めるとともに、学年に応じた系統的な学習ができるよう、横断的・縦断的名カリキュラムを編成している。

(2) 帯学習への位置づけ

給食・清掃後に行っている帯学習「基礎基本タイム」の金曜日を「音読タイム」とし、浄瑠璃の演目である「寿式三番叟」の語りを全校で練習している。

(3) 浄瑠璃クラブ・和文化クラブの位置づけ

浄瑠璃クラブは約 30 年前に近松にゆかりのある伝統芸能に親しむことを目的に課外クラブとして設立された。和文化クラブは伝統芸能に親しむことを希望する児童のために数年前にクラブとして立ち上げた。両クラブでは地域の方の協力を得て、三味線や太鼓の演奏、「寿式三番叟」の語りと舞いに取り組んでいる。また、毎年 10 月に近松の命日にちなんで行われている「大近松祭」や本校のオープンスクール「近松デー」などで練習の成果を発表している。

(4) 4 年生と近松音頭保存会の交流

毎年、4 年生とその保護者が学年行事で、近松音頭保存会の方々を招き、近松音頭を教えていただいている。体育大会にも保存会の方々に来ていただき、4 年生と一緒に近松音頭を踊り、その輪に他学年の児童や保護者、地域の方々が加わり交流している。

(5) オープンスクール「近松デー」

学校で児童の手で受け継いできた浄瑠璃を鑑賞し、地域の伝統文化に親しみ理解を深めることをねらいとして、毎年 12 月にオープンスクール「近松デー」を実施し、保護者や地域の方々にも下坂部小学校の取組を見ていただいている。浄瑠璃クラブ・和文化クラブの児童が本格的な衣装を身にまとい、児童による三味線や太鼓や語りに合わせて「寿式三番叟」を舞う。また、専門家や地域の方々の協力を得て能や三味線の演奏を鑑賞し、ほんものに触れる機会を設けている。

2 指導の工夫ならびに活動の実施体制

(1) 教育課程に位置づけ教育活動全体で取り組む

年度初めに各学年の年間カリキュラムに明確に位置づけられていることを確認し、教育活動全体で全教職員で取り組んでいる。また帯学習の「音読タイム」、浄瑠璃クラブ、和文化クラブもそれぞれ担当者が中心になって進めている。

(2) 「近松郷土学習」を研究の柱として取り組む

本校では、「近松郷土学習」を教育課程に位置づけるとともに、「学び合い高めあう心豊かな児童の育成」～対話や近松郷土学習から学びを共有し、深め合う授業の創造～というテーマで研究の一つの柱として取り組んでいる。「近松」を学ぶだけでなく「近松郷土学習を通して学ぶ」という考え方を全教職員が共有して取組を進めている。

(3) 地域の財産を生かし、地域から学び地域の方々と交わり、地域の方々から見守られ励まされて取り組む

2 年生は、生活科で町探検を通して近松ゆかりのものを発見し、それぞれが発見したものを友だちに伝えるという学習をしている。4 年生は地域の方から近松音頭を教えていただき、体育大会で全校生を交えて交流している。浄瑠璃クラブ、和文化クラブの児童は地域の方から手ほどきを受け練習し、「大近松祭」では文楽協会などの一流の方々の中で発表の機会を与えていただき、さらに高いところをめざそうという意欲を高める貴重な機会となっている。

【活動による成果】

1 活動の成果

近松郷土学習を、横断的・縦断的カリキュラムとして編成したことにより、各学年の近松学習の取組が明確化し、意識的、重点的に取り組むことができるようになった。そのことにより、総合的な学習や生活科、国語科、社会科などの教科と関連させながら、近松に関わる学習や近松が活躍した時代の文化や歴史、日本の伝統文化などと関連させて、計画的、系統的に学習を進めることができるようになった。また、近松郷土学習を教科の学習と関連づけることにより、児童は「近松さん」をより身近に感じることができている。伝統文化アンケートでは、8割以上の児童が「郷土の文化や歴史を学びたい」と答えており、「自分の学校を自慢できる」という児童の割合も増加している。学習の中でも、自分たちから「調べてみたい」「発表してみたい」という自発的な姿が見られている。

帯学習の「寿式三番叟」は全校で同じ時間に取り組むことにより、全校児童の一体感や帰属意識が高まり、自分たちの学校や学校の歴史を大切にしていこうという気持ちが育っている。また、そのことにより、自分もその一員であるという自尊心や居場所意識が高まることが期待される。

浄瑠璃クラブ・和文化クラブの活動では、更に児童の自主的・意欲的な活動が行われている。大近松祭とオープンスクールの近松デーという年に2回の大きな発表の機会があり、舞台上に立つことを目標に、みんなで協力して取り組んでいる。活動の振り返りでは、楽しく活動できたことや三味線や踊りとして舞台上に立つことができたことで達成感をもつことができたことを多くの児童があげている。

大近松祭や近松デーは、こうした下坂部小学校の取組を地域や保護者の方々に知っていただく貴重な機会となっている。そのことにより、単に近松学習の取組を見ていただくだけでなく、下坂部小学校の児童の自主的・意欲的に取り組む様子や異学年の児童の関わり、それを支える教職員の動きなど、地域との関わりの中で児童を育む本校の姿勢をして知っていただく機会ともなっている。これらの取組が、保護者や祖父母が何代にもわたって本校の卒業生というだけでなく、地域の方々に本校の教育活動が受け入れられ、協力をお願いする際には好意的に引き受けていただけるとのことにつながっていると思われる。

2 活動が周囲に与える影響

近松郷土学習の取組は、大近松祭や近松デーに限らず、ホームページや学校通信等で折に触れて保護者や地域の方々に発信している。このことにより、下坂部小学校では地域の歴史や財産をみんなで大切に受け継いでいこうとしていることをみなさんに知っていただき、そのことにより下坂部小学校は地域から大切にされる学校になっている。

浄瑠璃クラブ・和文化クラブの活動は学校内だけでなく、地域や保護者の方々にもよく知られ、「下小に浄瑠璃あり」といわれるほどである。クラブの活動を通して、地域からも出演の依頼が来るなど、学校と地域との交流にもつながっている。下坂部小学校の児童は4年生になったら浄瑠璃クラブに入って舞台上に立ちたいという目標を持っている。クラブの活動が伝統文化を受け継いでいるという誇りにつながっている。

3 他の教育現場でも活かせるポイント

(1) 郷土学習をカリキュラムに位置づける・・・郷土学習を横断的・縦断的カリキュラムに位置づけることにより、児童は6年間にわたり何らかの活動で取り組むことができる。また、発達段階を踏まえ系統的に取り組むことで、「触れる」「知る」「親しむ」段階から、「詳しく知る」「進んで調べる」「より深く調べる」「継承する」というように、段階的、発展的な学習をすすめることができる。

また、帯学習に位置づけることにより、児童にとって日常的で身近な存在になっている。

(2) オープンスクールでの取組・・・オープンスクールを一つの発表の場とすることにより、地域や保護者の方々に本校が郷土学習を特色ある取組として教育活動の一つの柱に位置づけていることを知っていただく機会となっている。また、児童にとっては多くの方々に日々の活動の成果を見ていただくことができる。また、「ほんものにふれる」機会として、オープンスクールを活用して、能楽師や三味線奏者の方々を講師に招き、様々な伝統文化を学んでいる。

(3) 地域人材、地域資源の活用・・・浄瑠璃クラブ・和文化クラブの活動には地域の三味線のお師匠さんに来ていただいて手ほどきを受けている。4年生の学年行事と体育大会には近松音頭保存会の方に来ていただき、踊りを教えていただいている。また、近松記念館には児童が見学に行かせていただくとともに、大近松祭では日頃の練習の成果の発表の場を与えていただいている。

●審査資料（郵送分）の返却 どちらかに○をつけてください。 希望しない・する

●添付の審査資料 ※「子ども達の様子」「成果の裏付け」が見える資料を添付してください。（5点まで）

・尼崎市教育委員会指定「特色ある教育活動推進事業」研究発表会 研究冊子 ・近松（郷土）学習年間指導計画

・教職員研修資料（パワーポイント） ・浄瑠璃クラブの活動の様子（写真）

・大近松祭案内